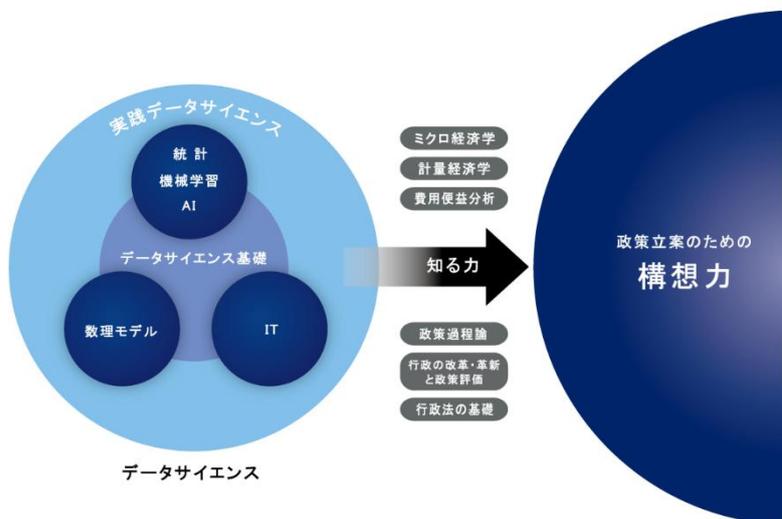


6.GRIPS における特色ある教育

6-1-1.データサイエンス教育

GRIPS におけるデータサイエンス教育



21 世紀も四半世紀を過ぎ、今やデータサイエンスリテラシーは政策立案者にとって不可欠なものとなりつつあります。そのため、本学の学生全員が、現実データの分析を行うことができる幅広いデータサイエンスの技を身につけることが理想的です。この理想に向けて、現在、本学ではデータサイエンス教育を強化するため、カリキュラムの再編成を行い、データサイエンスの指導により多くの教員を配置する等の改革に取り組んでいます。具体的には、データサイエンス教育のコア科目として、「データサイエンス基礎」と「実践データサイエンス」を設置し、そのほか、計量経済学、オペレーションズ・リサーチ、地理情報システムなど、データサイエンスに関連する多くの科目を開講しています。また、政策研究データサイエンス (DS) 認定証制度を通じて、学生の皆さんのデータサイエンスとその関連分野の学習を奨励しています。(詳細は「6-2 政策研究データサイエンス認定証制度について」をご覧ください。)

時代はデータに基づく行政を要請しています。ですから、これらの科目からの学びは、すべての学生の皆さんにとって、将来のキャリアのための大きな財産となることでしょう。

これまでにも、貴重で興味深いデータの収集に成功しながら、データ分析の技量の限界により、本格的な量的解析に至らずに単純な記述分析にとどまってしまう事例が散見されました。これは学生本人だけでなく、本学にとっても大きな損失です。このような観点から、研究においてデータの活用を考えている場合は、本学での学びの初期段階よりデータサイエンスに慣れ親しむことが極めて重要であることも強調しておきたいと思ひます